

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名

Do you know KANAGAWA ?
～近世 神奈川湊の繁栄～

内容のまとめ

B 近世までの日本とアジア
(3) 近世の日本
(ウ) 産業の発達と町人文化

1 単元目標

- ・ 近世にかけ発展した街道や宿場について資料を読みとり理解する。
- ・ 江戸時代の産業の発展やつながりを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 歴史の変化に応じた地域の人々のたくましい生活の様子を様々な資料を通して理解し、主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身に付けさせたい資質・能力

神奈川県の名の由来ともなっている「神奈川」は交通の要衝にある湊町として発展し、鎌倉時代には文献にはすでにその名が見える。さらに江戸時代には東海道の宿場町として栄え、多くの錦絵にその姿を描かれているが、現在はその名残をわずかに残すのみとなっており、「横浜駅」を知ってはいても「神奈川駅」の所在を知る生徒は少ない。それに対して神奈川県の県庁所在地である横浜市は全国的にその名を知られているが、都市としての本格的な発展は幕末の開港をきっかけとしている。生徒は横浜について開港当初から明治初期について学習しているが、それ以前のようにすについてはあまり情報を得ていない。

そこで今回は1時間目に「安定する社会と諸産業の発達」2時間目に「各地を結ぶ陸の道・海の道」、3時間目に本時「近世神奈川湊の繁栄」という構成にすることで、1時間目、2時間目の学習した五街道や海上交通の発展や各地の産業などの内容を、3時間目に実際の資料や地域の材を活用して学ぶという単元の構成とした。

江戸時代前期には、菱垣廻船（弁才船）が立ち寄り、四国の塩と関東の麦とを結び付け、特産品の醤油を生み出すなど、東西の物資の一大集散地であった神奈川湊。享保期以降は江戸の十組問屋（株仲間）の利益誘導策の影響を受けて、菱垣廻船が立ち寄りなくなり一時低迷したが、知多半島の廻船集団・内海船などの民間新興開運勢力とのつながりによって活気をとり戻した。幕末には対岸の地、横浜が開港されるなど、近世の重要な歴史的事象にも大きく影響を受けてきた。神奈川湊の変遷を通して時代の変化に合わせたたくましく生きてきた民衆についても注目させたい。

3 実践計画の概要

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。	・ 産業の発達などに着目して、都市を中心とした経済が形成されていく中で、各地方の生活文化が生まれたことや、交通の整備による変化などを考察し、表現している。	・ 近世の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
・ 資料から神奈川湊が中世以来の交通の要衝であったことを読み取ることができる。 ・ 幕府の政策や国際情勢の変化の中で、神奈川湊の位置づけが変化したことを理解している。	・ 神奈川湊の重要性と変化について、資料や既習の知識から多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	・ 資料を粘り強く読み取りながら中世以来の要衝であった神奈川湊への関心を高め、歴史の流れの中での変化について主体的に追求しようとしている。

(2) 指導と評価の計画 3時間扱い

学習活動と内容（時間数）3時間	主な資料（◆）と教師の支援（◇）など
1 安定する社会と諸産業の発達 江戸時代の国内産業がどのように発達していったのかを絵画資料や地図などから読み取ってまとめる。	◆関連地図、図表 ◇吉田新田などの地域の新田開発の歴史に触れる ◇教科書の地図等で各地の特産物を確認しておく
2 各地を結ぶ陸の道・海の道 交通網の整備は、都市や産業の発達にどのような影響を与えたのか、三都を中心とした都市の成長などをふまえながら考える。	◆関連地図、図表 ◇神奈川周辺の陸の道・海の道を確認しておく
3 Do you know KANAGAWA ? ～近世 神奈川湊の繁栄～（本時） 前時までの学習をふまえ、横浜市域における重要な交通・商業の要地であった神奈川湊のようすを資料から読み取って理解する。	◆「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」（資料①） ◆「改正東海舟程全図」（資料②） ◆「神奈川を指示する道標類」（資料③） ◆「有楽道中双六」（資料④） ◆「五十三次名所図会 四 神奈川」（資料⑤） ◆「菱垣廻船模型」（資料⑥） ◆「阿波国廻船問屋奉納の灯籠基礎部」（資料⑦） ◆「東京横浜名所一覧図会」（資料⑧）

4 本時目標

- ・神奈川湊・神奈川宿の発展の歴史を資料から読み取り江戸時代の産業の発展について理解するとともに、民衆どうしのつながりや時代の変化に合わせたくましく生きぬいた人々の生活について考える。

5 本時展開

主な学習活動と内容	主な資料（◆）と教師の支援（◇）など
・「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」を提示する 【予想される生徒の反応】 S：この絵は見たことがある。 S：海の向こうに富士山が見えるから静岡？ ・「改正東海舟程全図」を読みとる 【予想される生徒の反応】 S：金川（神奈川）、本牧、程ヶ谷（保土ヶ谷）、戸塚・・・ S：横浜の名前は記されていない。	◆「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」 【発問例】 T：この錦絵はどこの風景を描いたものかな？ →「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」。天保年間の作品。現在の沖合から見た神奈川宿周辺を描いたものではないかと言われている。 ◆「改正東海舟程全図」 【発問例】 T：「改正東海舟程全図」から現在の横浜市域の地名を探してみよう。 ◇江戸時代、天保年間に作成された地図であることと、地名の漢字表記が現在と若干異なることを伝える。

・「改正東海舟程全図」を読みとる 【予想される生徒の反応】 S：船の通り道や街道を示しているのでは？ S：神奈川は海路と陸路が交わる場所だ。	【発問例】 T：地図に描かれている赤い線は何を示しているのだろう。 ◆「神奈川を指示する道標類」 ◆「有楽道中双六」 ◇複数の資料から、江戸時代の人々にとって、神奈川はどのような町だったかを考えさせ、関心を高める。 ＊資料のほかにも、現在の横浜市域には「かながわ坂」など神奈川湊・神奈川宿への交通路を意味する地名が残っていることにも触れる。
・「五十三次名所図会 四 神奈川」を読み取る 【予想される生徒の反応】 S：教科書や資料集で見たことがある。 S：江戸に物資を運ぶ船。 ・2つの資料から、神奈川が江戸時代前期（～享保）菱垣廻船の立ち寄る港町であったことを理解する。 ・教科書や資料集を用いて自由な予想させる。 【予想される生徒の反応】 S：大坂から江戸に運んでいる S：米や酒？ ・写真資料から「阿波国」の文字を読みとる。 【予想される生徒の反応】 S：阿波国出身の人々が住んでいた。 S：阿波国からも船が来ていた。	【発問例】 T：これは江戸時代に描かれた神奈川宿の錦絵です。この錦絵に描かれている船はなんだろう。 ◇交通の要衝であった神奈川は錦絵の題材としても多く取り上げられていたことに触れる。 ◆「菱垣廻船模型」 ◇船は荷物輸送の船として使われていた弁才船。大坂から江戸に物資を輸送していた菱垣廻船に用いられていたことを確認する。 【発問例】 T：神奈川湊に停泊している廻船は、どのような荷物を、どこからどこに運んでいたのだろうか？ ◆「阿波国廻船問屋奉納の灯籠基礎部」 【発問例】 T：これは神奈川宿の神社に奉納された灯籠です。どこの商人が奉納したものかわかるかな？ ◇港町の神社の灯籠は海路の安全を願う商人たちが奉納することを補足する。 【発問例】 T：どうして阿波国（徳島県）の人々が、神奈川の神社に灯籠を奉納したのだろうか。 ◇阿波国の塩と相模国の麦により下総国（野田）で醤油が生産されていたことに触れ関心を高める。

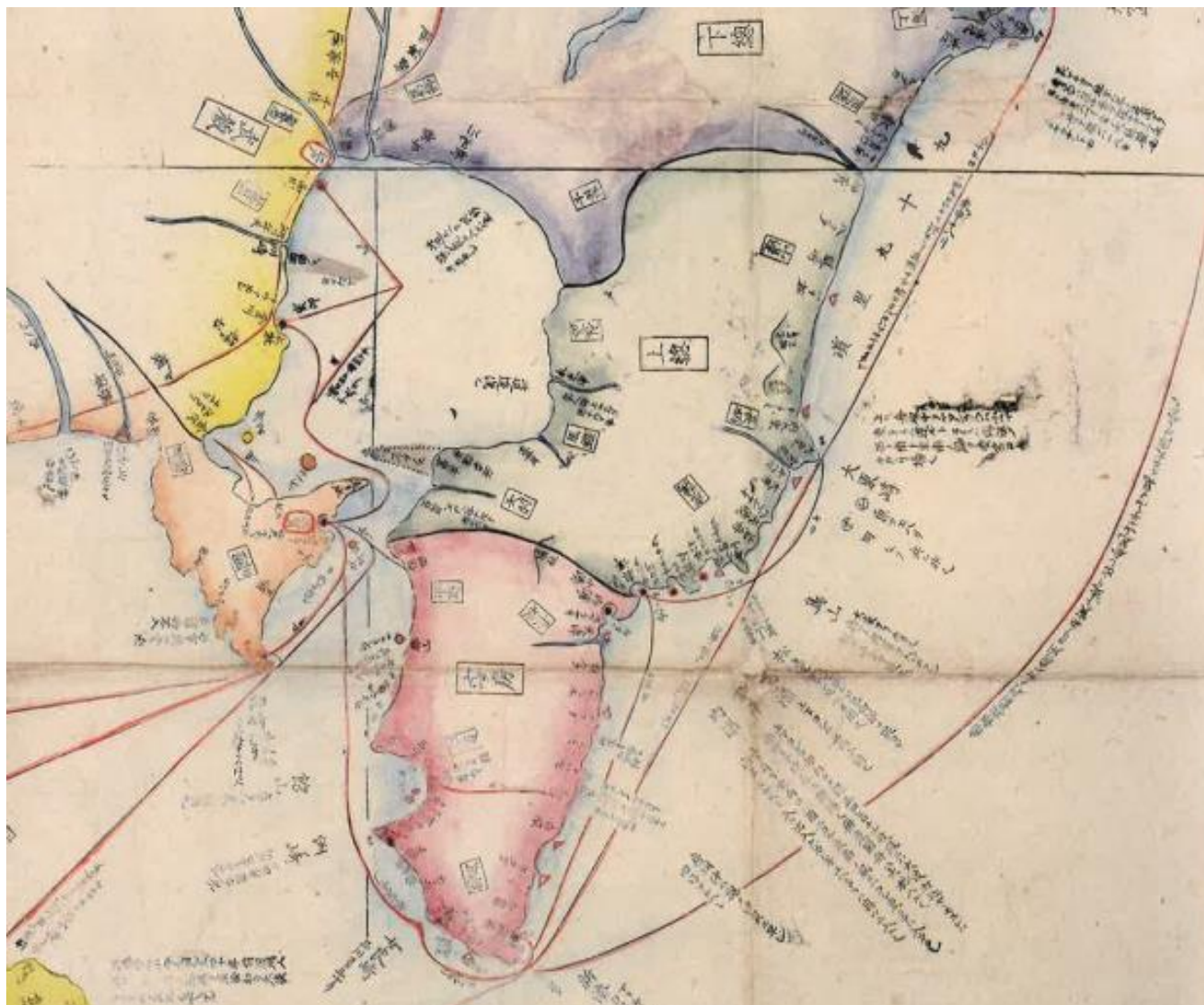
【予想される生徒の反応】 S：神奈川の人々が嫌がったのではないか S：神奈川が栄えていたので幕府が警戒したのではないか 【予想される生徒の反応】 S：タイトルが変わっている。 S：黒船のようなものが描かれている。 奥が横浜？ 【予想される生徒の反応】 S：地域の中心地を横浜に奪われて悔しい気持ち	◇「日米修好通商条約」の第3条を示す 【発問例】 T：条約には「神奈川」を開港地するとあるのに実際に開港されたのは横浜なのはなぜだろう。 ◇地図で東海道と神奈川の位置関係を確認するように示して考えさせる。 ◆「東京横浜名所一覧図会」 【発問例】 T：この錦絵と、先ほどの「五十三次名所図会 四 神奈川」を比べて気づくことは何だろう。 【発問例】 T：横浜が開港地になったことは神奈川の人々にどのような影響を与えたのだろうか。 ◇開港を機に菱垣廻船からの荷揚げ許可を幕府に求めたこと、関東内陸部から横浜に輸送する輸出用生糸の中継地点として賑わったことなどにふれ、激動の時代の中でたくましく生きた人々に気づかせる。
・横浜開港のあと、神奈川の役割はどう変化したのか。そこに暮らす人々の気持ちはどう変化したのかを考える。	◇これまでの資料をもとに変化や思いを考えさせる。

6 博物館との連携（参考文献など） 歴史博物館発行の企画展・特別展図録より

①『陸の道と海の道の交差点 江戸時代の神奈川』裏表紙 P.4 「富嶽三十六景神奈川冲浪裏」



② 『和船と海運』 P.37 「改正東海舟程全図」(天保11年/1840年)



③ 『海からの江戸時代—神奈川湊と海の道—』 P.42 「神奈川を指示する道標類」



61. 道標④ (緑区長津田)

「向テ右リかな川、左みそノ口」との銘がある。



60. 道標③ (緑区十日市場)

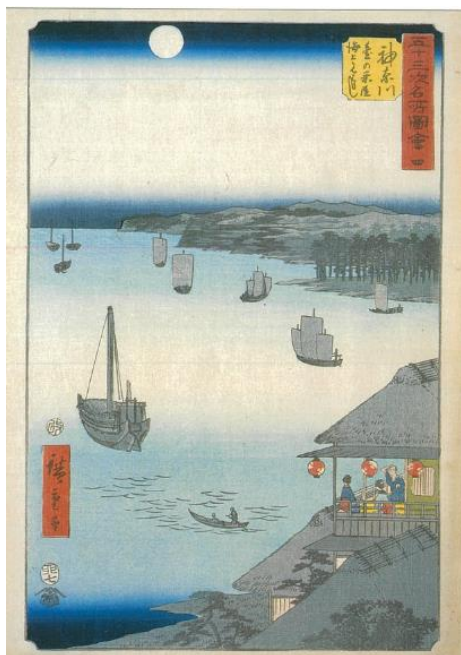
「東金川道、馬頭観世音、西八王子道、慶応二丙寅(1866)年・八月吉祥日、十日市場村・講中」との銘がある。

④ 『東海道双六の世界』 P.4 「有楽道中双六」



⑤『陸の道と海の道の交差点 江戸時代の神奈川』裏表紙「五十三次名所図会 四 神奈川」

⑥『和船と海運』p.116「菱垣廻船模型（弁才船）」（市歴博常設展示資料）



⑦『海からの江戸時代—神奈川湊と海の道—』p.62「阿波国廻船問屋奉納の灯籠基礎部」



114. 阿波国廻船問屋奉納の灯籠基礎部
江戸時代
(神奈川区・大綱金刀比羅神社寄託)

神奈川青木町の大綱金刀比羅神社へ奉納された灯籠の台座には、阿波国の「桑島・小松島・今津・中島」湊における廻船問屋らの屋号が刻まれている。これは阿波国の廻船と神奈川湊の関係を示す数少ない資料。尾州廻船以外、各地からの廻船が神奈川湊に入港してきたことを示すものである。

⑧『陸の道と海の道の交差点 江戸時代の神奈川』裏表紙「東京横浜名所一覧図会」



その他 【博物館より参考事項】

※市歴史博物館の常設展示室は6つの時代に区分されている。その中のいくつかの展示資料には、詳しく解説したパンフレットが通路に置かれており、資料として持ち帰ることができる。
例…「横浜市域の古墳と横穴墓」「戦いにむかう武士」「神奈川湊と内海船」等。